

今後の災害に備えて

永久保存版

九州北部豪雨では様々な被害が発生しました。その情報をどこにつなげたらよいかとまどった方もいらっしゃると思います。今後も同様の自然災害が発生しないとは言い切れません。災害は無いに越したことはありませんが、万が一に備えて、農業関係の各種連絡先を掲載しますので参考にしてください。

●農地、農道、水路等に被害があった場合

日田市 農業振興課 基盤整備係 0973-22-8202

又は最寄りの市振興局、振興センター

TEL () ←ご記入ください。

九重町 建設課 工務グループ 0973-76-3811

玖珠町 農林業振興課 農林土木係 0973-72-7164

●農業用機械、倉庫等に被害があった場合

日田市 農業振興課 生産・流通推進係 0973-22-8211

又は最寄りの市振興局、振興センター

TEL () ←ご記入ください。

九重町 農林課 0973-76-3804

玖珠町 農林業振興課 農政係 0973-72-7164

→被害があった農業用機械、倉庫等に保険、共済等を掛けていた場合

保険、共済等を掛けている団体にご連絡ください。

団体名 ()

TEL ()

←保険、共済等を掛けている場合は、ご記入ください。

●農作物に被害があった場合

大分県農業共済組合 中西部支所 収穫共済課 0973-72-3409

灯油、重油等の取り扱いに注意!

これから本格的な冬を控え、灯油や重油等を扱う機会が増えます。取り扱いには十分注意しましょう。H29年6月には、九重町で加温設備用の重油が河川に流出し、油の拡散防止、回収等に関係機関を巻き込む事故が発生しました。このような事案が生じないよう気をつけましょう。

作成・発行 大分県西部振興局農山村振興部 集落営農・水田班

監修 大分県集落営農推進西部支部

TEL : 0973-22-2585 FAX : 0973-23-2219

集落営農かわら版

平成30年1月1日 VOL. 29
大分県西部振興局農山村振興部
大分県集落営農推進西部支部

九州北部豪雨を振り返って ～たちあがる集落営農組織～

平成29年7月5日(水)の九州北部豪雨では、大分県西部地域にも大きな被害がありました。被災された方々にはあらためてお見舞い申し上げます。

今回の災害の中で、被害の把握や、その後の復旧・復興のために奔走し、今も奮闘している集落営農組織をご紹介します。

○(農)大肥郷ふるさと農業振興会

大鶴、夜明地区の経営面積およそ38haのうち13ha以上が豪雨の被害を受けました。特にJR大鶴駅から東峰村にかけた地域では、大肥川の氾濫により農地に大量の土砂や流木が流れ込み、現状では作付けの目途が立たない圃場が数多くあります。そのような状況でも地域住民の方と協力し残った水田の土砂撤去や用水の堰の修復などを行い、被災後すぐに大豆の播種にとりかかるなど、水害を受ける前の田園風景を取り戻すために日々営農を進めています。また、同会の農業体験塾の参加者らと被災した水田にヒマワリの種を播く活動も行いました。10月に満開を迎え、大輪の花は住民の方だけでなく大明地区全体の復興に向けたシンボルとなりました。



甚大な被害を受けた竹本地区



ヒマワリの種まき体験



満開のヒマワリ

○(農)小野谷

法人の経営面積19haのうち3ha近くが被害を受け、小野地区全体ではおよそ8haの水田が被災しました。大きく報道された柳野(なぎの)地区の土砂ダム以外にも、土砂で完全に埋没した圃場や、川沿いの水田の広範囲に渡る崩落など、甚大な被害が地域一体に及びました。水害を受けていない水田においても、増水による頭首工や側溝の破損で水が引けない状態でしたが、地域住民の方の力も借りながら10ヶ所近くにパイプやポンプの設置を行うことで、何とか水田を維持し収穫へと繋ぐことができました。法人として取り組んでいる特別栽培米の「つや姫」も無事収穫でき、良食味米の産地として着実に復興へと向かっています。



川沿いが崩落した水田



応急的なパイプの設置



「つや姫」の収穫期(奥は大規模な山崩れ)

○(農)こご

大きな水田被害は少なかったものの、獣害フェンス柵が被害を受けました。水稻の出穂後、獣害がひどくなる前の8月18日に法人の役員、組合員、援農隊でフェンスの修復を行いました。倒れたフェンスを起こしたり、畦畔が崩れたところは移設を行ったり、フェンスに付いた草木等のゴミを除去したりしました。その後も、法人の理事が巡回し、被害が出た圃場のフェンスの修復作業を随時行って、被害の拡大を最小限に食い止めてきました。引き続き、巡回し獣害フェンス柵の修理修復を行い、獣害被害を減らしていきます。



倒れたフェンス



力をあわせて！



修復後

●東有田地区の集落営農組織：各組織の代表者の方にコメントをいただきました。

○本村営農集団 小山一善 組合長

50年に一度という短時間豪雨、H24年に2度、そして5年経った今年の7月5日に同様な被害となりました。5年前の経験で夜明けと共に先ずダンプとパワーショベルで県道の流木等を片付け、それから水田に流入した流木その他家財道具等を1人2人と関係者が加わり、約20人程の大海戦術で午前中迄に全て終えることができました。-絆-

○熊の尾地区農機利用組合 後藤和文 組合長

東羽田町熊の尾部落におきまして水害被害は多少ありましたが、大きな水田被害はありません。しかし、防護柵、井関、水路、農道の被害はひどく関係者又部落全員で早急に復旧作業に取りかかりました。人力でできない力所は、地元の土木会社をお願いし、7月16日に部落全員の協力により、稲作に支障の無い復旧作業が完了しました。

○岩美地区営農組合 大谷幸寛 組合長

今回の災害では、10本ある水路全ての頭首工に石や土砂がはまった。人力でできる作業は少しずつ地元でやりながら、機械を持った業者にしかできない作業も多く、じりじりしながら見積が出てくるのを待った時期もあった。29年も新米販売の看板を掲げて米を売っており、被害が激しいほ場を除き収穫が無事終わってほっとした。

○諸留・上諸留地区営農組合 高倉治忠 組合長

5年前に被災し、やっと復旧が終わり植え付けた水田が雨で跡形も無く崩壊。もう復旧意欲がない、と云う声もある。農道が決壊し、復旧には数年かかりそうだ。水路は水が通らず緊急を要して自力復旧した力所が多い。河川は再発しない様な改良型の復旧を願っている。農地を荒廃させてはならない気持で組合員一同頑張っている。

○羽田町営農組合 後藤勝 組合長

高齢化が進み、農業を取り巻く環境は非常に厳しくなっている中、5年前に続き又も強烈な九州北部豪雨により組合員の多くの農地が被災し衝撃を受けているが、今後も集落の農地を維持管理していく中で、会員一同「人・農地プラン」を活用すべきと考え取り組む事にした。その為にも1日でも早く農地の改良復旧工事をと願う。

○月出山まちづくり委員会 阿部角雄 組合長

今回の豪雨による山崩れで農機具倉庫が倒壊し格納していたコンバイン2台、田植機1台が押しつぶされ修理不能の大被害となりました。激甚災害による国の補助金を活用する為「人・農地プラン」の策定を組合員全員参加のもと関係機関のご指導を頂き取り組みました。来年度の作付が例年通りに行われる事を乞い願っている処です。

新しい集落営農組織のご紹介

○まえつえ営農組合（平成29年7月14日 設立総会 組合長 石井照久 60戸）

日田市前津江町には13の協定集落があり、中山間地域等直接支払制度に取り組んでいます。そのうち2つの協定集落では以前から集落営農組織として規約を定め活動を行っていましたが、今回あらたに4つの協定集落が一緒になり営農組合を設立して農作業受託規程を定め、構成員の農作業を受託する体制を整えました。

今後はこの営農組合が中心となり、多面的機能支払への取り組みなどあらたな取り組みに踏み出す予定です。また、まえつえ営農組合の設立を契機として、同じ町内の隣接地区でも一度中断していた中山間地域等直接支払制度への取り組みが復活するなど波及効果も見られています。まえつえ営農組合のさらなる拡大・発展が期待されています。



シリーズ～新たな取り組みへのチャレンジ～

v o l . 27では(農)こごのハボタン栽培へのチャレンジについて紹介しました。今回から、同様に新たなチャレンジを始めた集落営農組織をシリーズで紹介していきます。

枝豆栽培にチャレンジ！ ～笑顔満点！草ノ入江営農組合～

組合発足以来、大豆栽培に取り組みを行っており、昨年からは少しでも売上げを上げるために、枝豆での出荷を試験的に行ってきました。今年度は、収穫期間を長くするために、①品種の試験、②定植・播種期の試験、③ハウス内栽培等の試験を行ってきました。また、出荷調整には、地域の高齢者（平均年齢85歳）に協力してもらい、葉をとったり、切りそろえたりして、道の駅や福岡で販売しています。味が良く人気商品となっており、当初の売上げ目標を大幅に超えることができました。来年以降も、試験結果をもとに改善を図り、収穫期間を延ばし、安定して出荷できるようにして、組合の収入源にしていきたいです。

